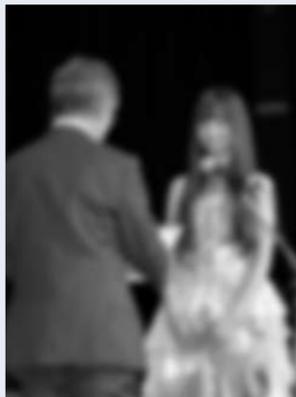


Topics

初のふるさと観光大使に

あげまつみ か
上松美香さんを任命



任命式（4月28日）

市では、初の「ふるさと観光大使」に、南米パラグアイのハープ「アルパ」の演奏家として国内外で活躍する、上松美香さん（穂高出身）を任命しました。任命式は4月28日、早春賦まつり前夜祭の冒頭で行われ、宮澤市長から上松さんに任命書が手渡されました。上松さんは「デビュー以来、ふるさと安曇野の景色や多くの皆さんに支えられてきました。少しでも恩返しできればと思っています」と話しました。

「ふるさと観光大使」は、各分野で活躍し、安曇野市に深い理解があり、市の魅力を多くの人にアピールしていただける人を任命するもので、本年度から始まりました。上松さんには、演奏活動などを通じ、市の観光・特産などを記載した名刺による宣伝活動を無報酬で行っていただきます。

上松美香さん 略歴

13歳でアルパを始め、15歳でパラグアイの音楽祭で日本人初の特別賞を受賞。1999年、「ラテンアメリカアルパフェスティバル」（メキシコ）出演。2000年、17歳でCDデビュー。国内外でアルパの演奏、普及活動を行っている。



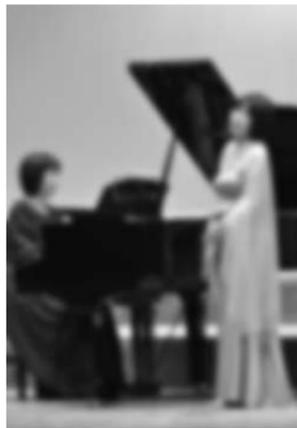
童謡・唱歌をうたう会の皆さんによる発表



最後に「めえめえ児山羊」を参加者全員で合唱



藤森さんの作品を紹介するパネル展示



声楽家の天羽明恵さん（ソプラノ）とピアニスト白田由香里さんによる招待演奏

第32回作詞作曲コンクール



最優秀賞 「銀河をぬけたら」
やまだゆうき そねはらしろう
山田勇輝くん 曾根原唱くん
もりかずま はたけやまたいせい
森一馬くん 畠山大成くん（豊科南小6年）

優秀賞 「ぼくらが旅立つ日」
さかいなみき
酒井並木さん（穂高西小5年）

優秀賞 「かわいいあひるのさくらちゃん」
まきいしななみ
牧石菜々美さん（堀金小2年）

※氏名写真右から、学年は応募当時

最優秀賞の「銀河をぬけたら」は4人で制作。畠山くんと森くんが作詞、曾根原くんと山田くんが作曲をそれぞれ担当。「銀河系の外を見てみたい気持ちを詞に込めました。制作途中、曲と詞とが合っているのがとても楽しかった」と話してくれました。



第2部では、これまでの作詞作曲コンクール最優秀作品の中から2曲が披露されました。（写真は、招待演奏の音楽家 太田直樹さん、豊科北小、穂高南小合唱部の皆さん）

幾世代にも愛される童謡
歌う喜びを子どもたちへ

第50回童謡祭り（実行委員会主催）が5月5日、豊科公民館で開催され、約700人が参加しました。この祭りは、昭和39年5月5日「子どもの日」に豊科出身の文学者・藤森秀夫さんを顕彰し、旧豊科中学校「思索の森」（現在の豊科近代美術館敷地内）に記念碑が建立されたのが始まりです。藤森さんは「めえめえ児山羊」をはじめ多くの童謡を作詞し、これらの作品は、世代を超え今も多くの人に歌い継がれています。

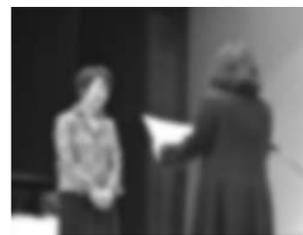
昭和56年からは、小中学生による作詞作曲コンクールも開催され、本年は75作品の応募の中から3作品が入賞し、最優秀作品には「銀河を抜けたら」が選ばれました。この作品は、審査した豊科出身の作曲家・飯沼信義さんが補作・編曲し、当日、発表されました。

これからも子どもたちがよい歌と曲に触れる機会をつくっていきます

童謡祭り実行委員長
やまもとひろこ
山本紘子さん
豊科南穂高



これまでの作詞作曲コンクール入賞者の中には、国内外で音楽に携わり活躍している人がいます。これからも安曇野の子どもたちに詩や音楽を作る楽しさや「よい歌」と「よい曲」に触れる機会を作っていきたいですね。



開催にあたり、長年、協力いただいた、藤森秀夫さんの三女・佐野秀穂さん（東京都小金井市）に実行委員会から感謝状が贈られました。

ふじもりひでお
藤森秀夫（1892 - 1962）

豊科出身。ドイツ文学者・詩人。慶応義塾大学・明治大学のほか、旧制高等学校などで教壇に立つ。ゲーテとハイネ研究の権威。詩人として「めえめえ児山羊」をはじめ数多くの民謡・童謡などを作詞した。これらの作品は現在でも多くの人に歌い継がれている。



50年

童謡祭り

Do you matsuri

数多くの童謡を作詞した文学者・藤森秀夫さん（豊科出身）を讃えて始まった童謡祭りは、安曇野の子どもたちの感性を育み続けて50回目を迎えました。